

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2013年12月)

発表日2014年2月10日(月)

～13年度は貿易赤字による下押し継続。14年度以降の推移に注目～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
				貿易収支	サービス収支		
					貿易収支	サービス収支	
2013	1月	▲ 3,484	4,356	▲ 7,805	▲ 6,062	▲ 1,743	11,923
	2月	6,497	▲ 207	▲ 13,100	▲ 11,465	▲ 1,635	13,573
	3月	12,831	3,672	▲ 9,100	▲ 7,704	▲ 1,396	13,555
	4月	7,844	8,976	▲ 8,984	▲ 8,023	▲ 961	18,964
	5月	5,666	6,464	▲ 4,789	▲ 4,776	▲ 13	12,462
	6月	3,777	6,930	▲ 6,545	▲ 5,751	▲ 794	14,343
	7月	6,004	3,652	▲ 10,222	▲ 9,315	▲ 907	14,779
	8月	1,571	3,437	▲ 7,550	▲ 5,832	▲ 1,718	11,684
	9月	5,948	▲ 1,198	▲ 15,008	▲ 13,619	▲ 1,389	14,738
	10月	▲ 1,279	▲ 593	▲ 12,748	▲ 10,982	▲ 1,767	13,154
	11月	▲ 5,928	▲ 466	▲ 11,727	▲ 10,079	▲ 1,649	12,840
	12月	▲ 6,386	▲ 1,967	▲ 14,854	▲ 12,704	▲ 2,150	13,665

(出所)財務省「国際収支統計」

## ○経常収支(季節調整値)は4ヶ月連続の赤字。貿易赤字が拡大

12月の経常収支(原数値)は6,386億円の赤字(コンセンサス:6,854億円の赤字、レンジ:▲8,719～▲2,550億円)と、ほぼコンセンサス通りの結果となった。経常収支の赤字幅は、前月に続き過去最高を更新した。季節調整値でも、1,967億円の赤字(11月:466億円の赤字)と、4ヶ月連続の赤字となっている。内訳をみると、貿易収支(季節調整値)が、12,704億円の赤字(11月:10,079億円赤字)と4ヶ月連続で1兆円を超える赤字となった。輸出金額(12月:前月比▲2.6%)が減少した一方、輸入金額(12月:同+1.6%)が増加したことで、貿易収支は前月から赤字幅を拡大した。

10-12月期の経常収支(季節調整値)は、3,026億円の赤字(7-9月期:5,891億円の黒字)と現行統計で初めての赤字となった。また、2013暦年の経常収支は3.3兆円の黒字(2012暦年:4.8兆円の黒字)と、1985年以降で最低値となった。

このように、経常収支が低水準で推移している主因は貿易赤字の拡大だ。足元の輸出は、アジア向けの持ち直しやEU向けの改善がみられるものの、輸送用機器の減少などを背景に米国向けが伸び悩んだことで増加ペースは緩やかなままである。一方で、輸入は機械類や鉱物性燃料などを中心に堅調な推移が続いている。伸び悩む輸出、堅調な輸入という構図が続くことで貿易赤字は高水準で推移し、経常収支に下押し圧力をかけている。

## ○所得収支は黒字幅拡大、サービス収支は赤字幅拡大

貿易外収支(季節調整値)の動きをみると、所得収支は13,665億円の黒字(11月:12,840億円黒字)と黒字幅が拡大した。所得収支は、引き続き緩やかな増加基調にある。

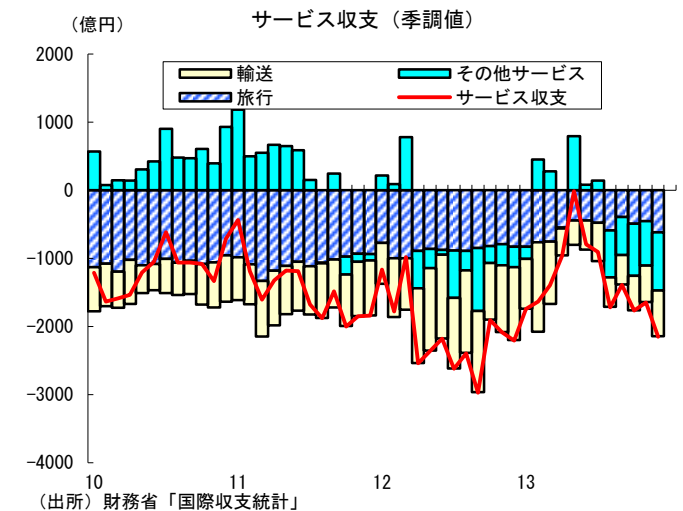
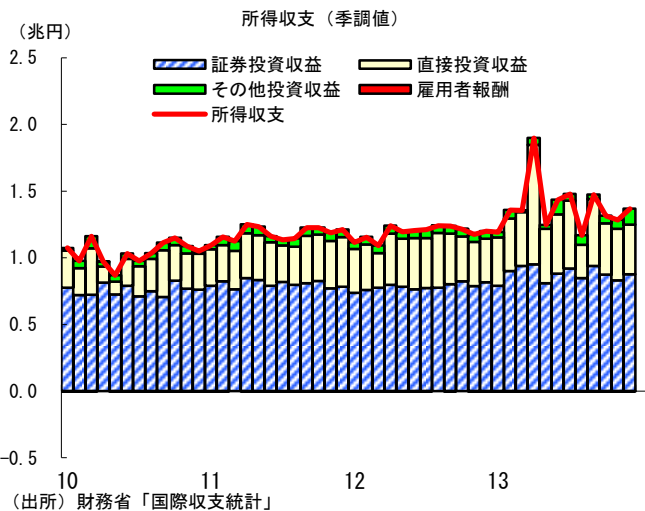
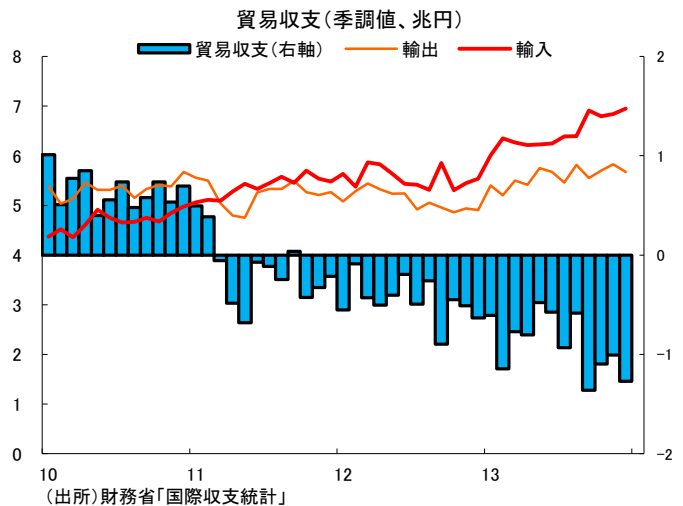
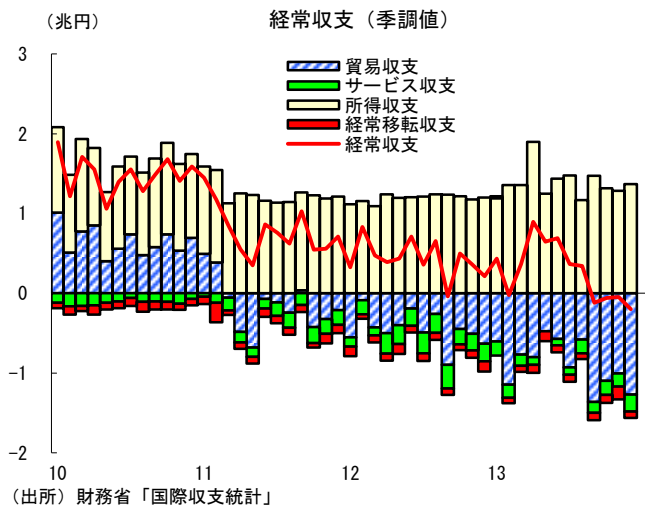
所得収支の内訳をみると、直接投資収益(11月:3,865億円黒字→12月:3,709億円黒字)が黒字幅縮小、証券投資収益(11月:8,311億円黒字→12月:8,758億円黒字)は黒字幅拡大となった。足元で、直接投資収

益がやや伸び悩んでいるものの、海外経済の持ち直しが見込まれることなどを背景に、増加基調での推移は維持されよう。証券投資収益は、為替の円安傾向での推移などを背景に増加基調での推移が見込まれる。

サービス収支は、2,150億円の赤字（11月：1,649億円赤字）となった。輸送収支が赤字幅拡大基調、旅行収支は赤字幅が横ばい圏での推移となっており、サービス収支の赤字幅は拡大傾向で推移している。

### ○14年1-3月期の経常収支は赤字の可能性も、4月以降は黒字転化が見込まれる

先行きを展望すると、消費税率引き上げ前の駆け込み需要などを背景に輸入は今後も高い伸びが続くことが見込まれる。輸出も緩やかな増加基調にはあるものの、貿易赤字は高水準で推移するだろう。また、所得収支は拡大が続くとみているが、ペースは緩やかなものとなろう。こうした状況を踏まえると、赤字が14年1-3月期に続くことも十分考えられる。むしろ、14年4月以降の動向が重要になってこよう<sup>1</sup>。14年度4月以降は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動によって輸入の増勢が弱まることが予想され、加えて、海外経済の持ち直しを背景とした輸出の増加や所得収支の黒字拡大傾向の継続も見込まれる。こうした中、経常収支は黒字転化、黒字拡大基調で推移していくものとみている。



<sup>1</sup> 詳細は、Economic Trends「経常赤字が意味するもの～4月以降の経常収支は要注目～」(2014年2月7日発行)をご参照ください。